

モートンイトトンボの兵庫県佐用町内の新産地

清水 哲哉¹⁾

モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* は、湿地、廃田、水田の畦脇などに生息し、近年は圃場整備などによる生息環境の変化により生息地が減少している。そのため、環境省のレッドリストにおいて、準絶滅危惧種 (NT) に選定されている。また、兵庫県内でも産地の減少傾向が続いており、2012年改定された兵庫県版レッドリストでは、それまでのBランク (環境省準絶滅危惧種相当) から、Aランク (同絶滅危惧種I類相当) に変更された。

筆者は、2012年5月27日、兵庫県佐用郡佐用町大畑の廃田 (図1) にて、モートンイトトンボの未成熟メスらしきオレンジ色のイトトンボを目撃した。確認のため5月31日に周辺の搜索した結果、オス、未熟メス、成熟メスを含む多数のモートンイトトンボを観察、撮影することができた (図2)。さらに6月、7月にも同地を訪れ、同様に多数の個体の観察し、最後に訪れた8月8日にも未成熟の1♀を観察している。このことから、この廃田がモートンイトトンボの発生地と考えた。東輝弥氏によると、佐用町内でのモートンイトトンボの記録は、これが初である。

この廃田では、モートンイトトンボの他、サラサヤンマ (兵庫県Bランク)、ヨツボシトンボ (兵庫県要注目)、シオヤトンボ、ハラビロトンボ、キイトトンボ、

コオイムシなども観察された。



図1 モートンイトトンボが生息する廃田。



図2 廃田で撮影したモートンイトトンボの♂ (上段)、未熟♀ (中段)、成熟♀ (下段)。

¹⁾ Tetsuya SHIMIZU こどもとむしの会

生息地の廃田は、佐用町と上郡町にまたがる丘陵地の谷間に存在する。周辺の谷間には、他にも多数の廃田が点在している。筆者は、最初の廃田から、東に約 0.5 km 離れた廃田で 6 月 11 日にモートンイトトンボの未成熟の 1 ♀を、南東に 1.5 km 離れた廃田で 7 月 24 日に成熟した 1 ♀を観察している。このことから周辺の廃田群に、発生地が点在していると考えられる。

これらの廃田は、人手の入らない耕作放棄地の常として、環境の遷移によりやがて湿地環境を失うものと予想される。実際、廃田群のかなりの部分で、畔の崩壊や用水路の水位低下、シダ類の繁茂などによる乾燥化、洪水堆積物による廃田の埋没が見られた。このことから、この廃田群もモートンイトトンボの長期間安定的な発生地としては期待できない。

兵庫県版レンドリストにおいて、A ランクとは“兵庫県において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、嚴重な保全対策が必要な種”と定義されている。一方、生息地の廃田は、周辺に設置されている標識から県有地と考えられるが、現在では遊休化している。そこで、モートンイトトンボをはじめとする貴重な湿原性生物群の保護区として、この廃田周辺を整備することで、県の休眠資産の有効活用ができるのではないかと思考する。

モートンイトトンボの発生地の調査に同行していただき、また、本号掲載の 4 報の執筆についてご助言いただいた近藤伸一氏に感謝申し上げます。また、モートンイトトンボの県内記録について情報をいただいた東輝弥氏にお礼申し上げます。

参考文献

- 山本哲央・宮崎俊行・西浦信明・新村捷介, 2009. 近畿のトンボ図鑑. ミナミヤンマ・クラブ, 240pp.
- 財団法人ひょうご環境創造協会, 2012. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類).
- 東輝弥, 2012. *Sympetrum Hyogo*, Vol. 12. 兵庫トンボ研究会.